es of Full Power and Destruction　～全力全壊の剣戟～

遊守護者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｆａｔｅ／Ｔｈｅ　Ｂｌａｄｅｓ　ｏｆ　Ｆｕｌｌ　Ｐｏｗｅｒ　ａｎｄ　Ｄｅｓｔｒｕｃｔｉｏｎ　～全力全壊の剣戟～

【Ｎコード】
Ｎ１０７８ＢＡ

【作者名】
遊守護者

【あらすじ】
ＵＢＷ後のエミヤシロウは剣の丘で死を受け入れようとしていた。そこで彼の最愛の女性が現れ、彼を違う世界へ転送したが・・・。

～注意書き～

皆さんはじめまして。　遊守護者です。

初めて書く小説なので注意しておきたい事がたくさんあります。

一、日本語下手です。アメリカに住んでいたので日本語がおかしいところがあるかもしれませんが気にしたら負けだと思ってください。

二、自分は「魔法少女リリカルなのは」を見たことがないです。つまり、ストーリー崩壊、キャラ崩壊等大変なことが起きると思いますが、そこは温かい目で見てください。　勉強してきます。

三、二と同じく「Ｆａｔｅ／Ｓｔａｙ　Ｎｉｇｈｔ」やったことありません。アニメと映画しか見ておりません。　勉強してきます。

四、オリジナル宝具が出てくる可能性があります。　出たときに説明しておきますので楽しみにしてください。

五、主人公はＵＢＷ√後のエミヤシロウです。　ちょっとだけロリコンであるが、物語が進むと恋愛感情が出てきます。

シリアス、コメディーのある物語にしていきたいと思います。

よろしくお願いします！！

～エミヤ設定～

エミヤシロウの設定していきます。

名前；エミヤシロウ

ＵＭＢ後である。
この物語の主人公です。凛に転送され、２６歳から９歳に戻ります。
魔術回路は原作の４倍、８４になります。理由は物語が始まってから説明が入ります。
髪の毛は白。
肌は浅黒い。
瞳は鋼鉄色。
魔術回路の数が増えたことにより、鈍感じゃなくなりました。
前回では言ってあるが、ロリコンだけど物語が進むと恋愛感情に変化します。
相変わらず皮肉屋ではあるが、かなりやさしく親しみ易い設定にしてあります。

～別れ～（前書き）

感想ありがとうございます。

頑張りますので応援してもらえるとうれしいです！！

～別れ～

I am the bone of my sword.
体は剣で出てきている。

Steel is my body, and fire is my blood.
血潮は鉄で、心は硝子。

I have created over a thousand blades.
幾たびの戦場を越えて不敗。

Unaware of loss.
ただ一度の敗走もなく、

Nor aware of gain.
ただ一度の勝利もなし。

Withstood pain to create many weapons waiting for one's arrival
担い手はここに独り剣の丘で鉄を鍛つ。

I have no regrets. This is the only path.
ならば、我が生涯に意味は要らず。

My whole life was "Unlimited Blade Works"
この体は、"無限の剣で出来ていた"。

血に染まった紅い外套を着た男は独り、剣の丘で立っていた。

「ガハッ!!」

俺は血を吐いた。

「・・・フッ。　この傷だと、もう俺に後はないな・・・。」

俺の名はエミヤシロウ。

否、衛宮士郎である。

俺は自分の理想を貫いてたくさんの人を救った。
大切なものも切り捨てた。
大勢の人に恨まれ、裏切られた。
だが、笑顔で「ありがとう。」と言われた事もあった。
俺は救えなかった人達を見るんじゃない。
俺は救えた人達を見た。
誓った。決してアイツの様にはならないと。
だけど、俺は固有結界 ” 無限の剣製” を使っていたこともあり、
体はアイツと重なっていた。
「今思うと、結局アイツとほぼ同じだよな。」
魔術協会は俺を追い、俺の魔力が暴走して無数の剣が俺を刺していた。
「なぁ親父・・・俺正義の味方になれたかな?」
返事が来るはずもない質問をした。
「俺頑張ったよな。セイバーもそう思うだろ?」
「たくさんの人を救って、感謝もされた。アーチャー、羨ましいだ

ろ？」

アーチャーに嫌味を言ったが、聞いてっかな？

「俺もういいよな？　親父・・・もう少しでそっちにいきそうだ・・・」

俺は笑いながら言った。

「彼女に見られたら、きっと「情けない。」って言うだろうな・・・。」

「情けない。」

懐かしい声を聞いてびっくりした。

「え？」

と言いながら振り返ると

「本当に情けないわね！」

そこに最愛の女性がいた。

「遠坂、いたのか・・・。」

「ずっといたわよ！　そんな独り言聞いたら泣いちゃうじゃない・・・。」

遠坂は涙を零しながらそう言った。

泣かせてしまった。最期の最後まで女性を泣かせてしまった。

「大丈夫だよ、遠坂。」

涙を拭きながらそう言った。

「全然大丈夫じゃないじゃない！！」

大声出しながら俺から離れた。

「遠坂はどんな用事で俺に会いに来たんだ？」

「アンタの死体を回収しに来た。」

やっぱそうか・・・。

魔術協会は俺の体を回収しようとした。なぜなら、俺は固有結界が使えるからだ。

固有結界は魔法に近い魔術だ。

俺の体を研究するのもわかる。

そんなこと思いながら遠坂が言った。

「と、言う設定で来てるわ。」

「は？」

俺は思わず口を開いた。

「本当は違う世界に転送するために来たのよ。」

「そんなことしたら遠坂は！！」

魔術協会に追われるぞ！　まで言いそうだったが。

「承知の上よ。対策を作ってあるから安心しなさい。」

「やっぱ遠坂はすごいな・・・。」

「ちょっと動かないで。」

遠坂は俺の傷を治療し始めた。

治療が終わった後、転送する準備がすぐ始まり整った。

「いくわよ。」

「遠坂・・・最後まで迷惑かけたな。ありがとう。」

「べ、別に気にしなくていいわよっ！・・・まぁ、そうよね。これで最後にしておきなさいよね。」

「あぁ、わかってるさ。」

「私のことはいいから、幸せになって彼女でも作んなさい。」

「その言葉、もう取り返せないぞ？」

「ふん！　何とでも言いなさい！」

「はいはい・・・。」

笑いながら言った。

「さようなら・・・、士郎。」

「はぁ・・・、「さようなら」じゃないぞ遠坂。」

「・・・そうよね。「またね」。」

涙目になりながらも最高の笑顔で言ってくれた。

こっちも笑顔じゃないとな。

「あぁ、「またな」。」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1078ba/

Fate/The Blades of Full Power and Destruction　～全力全壊の剣戟～

2012年1月3日00時50分発行